



**常時 SSL 設定 (https 化)**

## ■ はじめに

---

### ■ 【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権は株式会社インブリーズジャパンに属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

#### 【推奨環境】

このレポート上に書かれている URL はクリックできます。できない場合は最新の AdobeReader をダウンロードしてください。（無料）

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

## ■ 目次

---

■ はじめに .....	1
■ 【著作権について】 .....	1
■ 目次 .....	2
■ はじめに .....	4
■ SSL化する前の確認事項 .....	7
■ ブラウザは Google クロームを使う .....	7
■ 第1段階： Xサーバーで SSL 設定 .....	8
■ 第2段階： サイト URL を https://に変更する .....	14
■ 第3段階： .htaccess の記述を変更する .....	16
■ 3-1. 設定対象ドメインの選択 .....	16
■ 3-2. .htaccess の編集画面へ .....	20
■ 3-3. .htaccess ファイルの記述バックアップ .....	22
■ 3-4. .htaccess ファイルに記述を追加する .....	23
■ よくある質問 .....	27

■ 最終確認 .....	29
■ 転送確認 .....	30

## ■ はじめに

---

こちらでは、これから運営していくサイトを常時 SSL 化する手順についてお伝えしていきます。

近年、通信内容を暗号化し利用者の情報を保護する対策が増えつつあり、そこで普及してきたのが SSL 通信です。

これを利用したページの URL は http://ではなく、https://で始まる形式になっています。

大手の企業サイトや個人情報入力フォームなどでは、この SSL を取り入れていることが多く、そういったところで https://で始まる URL を見たことがあるかもしれません。

そもそも私達個人サイトではこのようなお話は関係ないように思っていたのですが 2017年8月頃から以下のようなメールが Google から届くようになりました。

「*Chrome* のセキュリティ警告を【ブログ URL】に表示します。

2017年10月より、ユーザーが *Chrome* (バージョン 62) で HTTP ページのフォームにテキストを入力すると、「保護されていません」という警告が表示されるようになります。また、シークレット モードを使用している場合は、HTTP ページにアクセスするだけで「保護されていません」と表示されます。

貴サイトでは、たとえば以下に示す URL に、*Chrome* の新しい警告が表示されるテキスト入力フィールド (`<input type="text">`、`<input type="email">` など) が見つかりました。これらの例を参考にどのページで警告が表示されるかを確認し、ユーザーデータを保護するための措置を講じていただきますようお願いいたします。なお、下の URL の一覧は、すべてを網羅したものではありませんのでご注意ください。

長期的には、HTTP で配信されるすべてのページを「保護されていません」と明示することを計画しており、この新しい警告はその一環です。

この問題を回避するには:

HTTPS に移行する

貴サイトを訪れた Chrome ユーザーに対して、「保護されていません」という警告が表示されないようにするには、ページを HTTPS で配信し、ユーザーが入力した情報のみが収集されるようにしてください。」

この文章のすべての意味を理解する必要はありませんが、

>2017 年 10 月より、ユーザーが Chrome (バージョン 62) で HTTP ページのフォームにテキストを入力すると、「保護されていません」という警告が表示されるようになります。また、シークレット モードを使用している場合は、HTTP ページにアクセスするだけで「保護されていません」と表示されます。

>長期的には、HTTP で配信されるすべてのページを「保護されていません」と明示することを計画しており、この新しい警告はその一環です。

とあります。

現在でも経験したことがあるかもしれませんが、

スマートフォンなどから http 形式 (古い URL 形式) で運営しているサイトにアクセスすると「保護されていません」という表示が出るようになってしまいました。

すでに既存のサイトの SSL 化は手間が生じるのですが、これから新たにサイトを立ち上げるあなたはラッキーです。

サイトを作る前の最初の段階で SSL 化設定をするのは簡単な作業になります。ですので、これからサイトを新しく作ろうとしている人には、まさにグッドタイミングなのです。

また、Google 側が https のページを優先的にインデックスするということを発表しています。

参考ページ：[HTTPS ページが優先的にインデックスに登録されるようになります](#)

つまり、https 化されたサイトのほうが SEO 的にも有利になるということの意味しています。

ただそうは言っても SSL 化するには非常に困難で費用も膨大にかかるのでこれまででは大手の企業サイトなどでしか採用されていなかったのですが 2016年6月30日から「Xサーバー」が簡単・無料の SSL を提供開始しました。

ブロガーズでもサーバーは Xサーバーを推奨しておりますので、Xサーバーを契約している方なら誰でも SSL 設定が無料で行えます。とてもありがたいですよね ^^

というわけで、皆様には、非常に好都合な条件で進めていただくことができます。

前置きが長くなりましたが、以降では、その常時 SSL 設定を進めていく手順について解説していきますね。

## ■ SSL 化する前の確認事項

---

### ■ ブラウザは Google クロームを使う



▼GoogleChrome (グーグルクローム)

<https://www.google.co.jp/chrome/browser/desktop/index.html>

今回の SSL 設定を推奨するに至った理由は以下になります。

>2017 年 10 月より、ユーザーが Chrome (バージョン 62) で HTTP ページのフォームにテキストを入力すると、「保護されていません」という警告が表示されるようになります。

Google クロームの新しいバージョンで「保護されていません」という警告が出るのを防ぐために、今回の SSL 設定の策をしています。

ですので、Google クロームで見た時に「保護されていません」と出ないようにするというのが第一優先事項で、クロームで見た時に「保護された通信」と出れば OK という意味でもあります。

これから SSL 設定作業をしていただくにあたり、確認作業がところどころで入ります。

マニュアルで出している例は GoogleChrome で見た場合の例になります。

ここが、違うブラウザですと、クロームと同じ状態に見えず、戸惑ってしまう方もいらっしゃると思います。

混乱しないように、以降の作業はマニュアルと同一の Google クロームで行うようにしてください。

## ■ 第1段階： XサーバーでSSL設定

「Xサーバー」にログインします。

<http://www.xserver.ne.jp/>



右下の「サーバーパネル」の「ログイン」をクリックしてログインします。

**\*ここでのIDは 一番最初に自分で決めたサーバーID になります。**

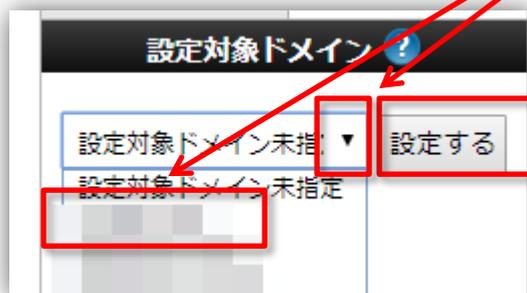
**一番最初のインフォパネルのログインIDとは違いますのでご注意ください。**



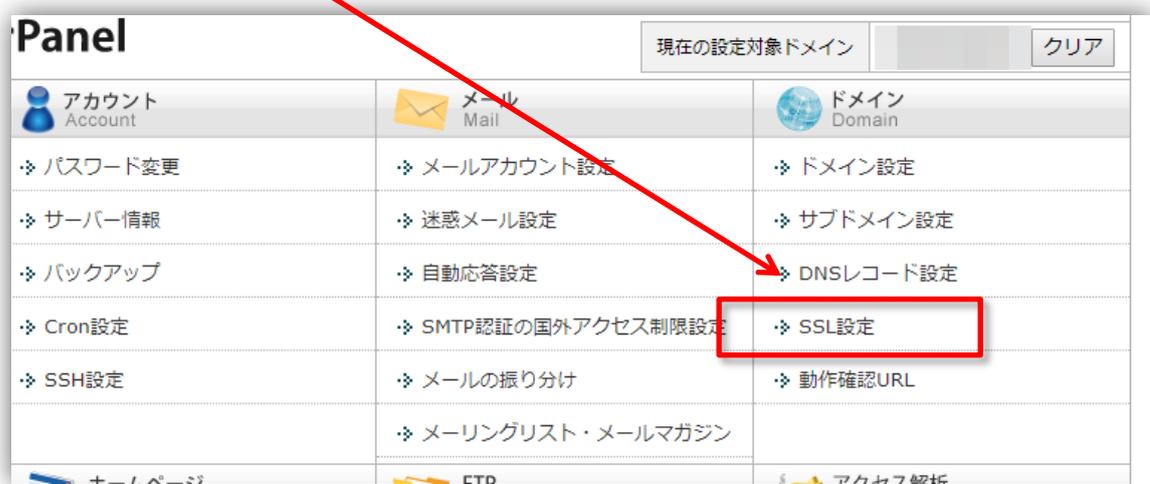
ここの、設定対象ドメインが、WordPress をインストールしたドメイン (URL) であることを確認してください。



違うドメインになっている場合には、左下のこの欄▼から選択して「設定する」ボタンを押してください。



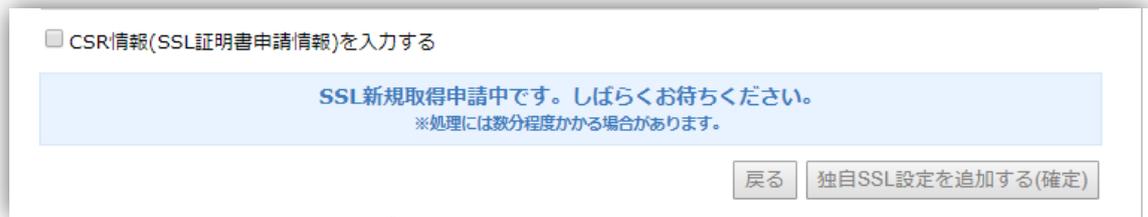
「SSL 設定」をクリックします。



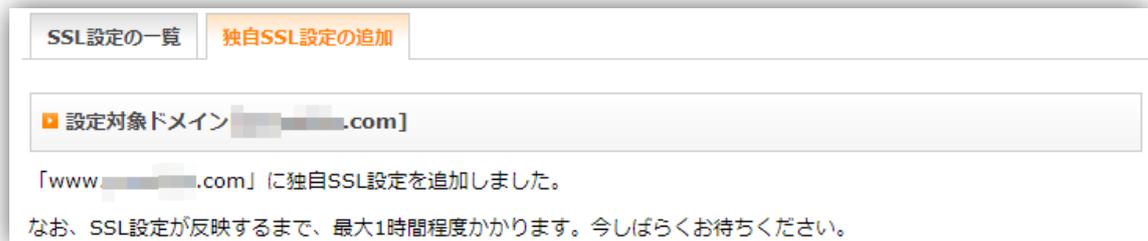
「独自 SSL 設定の追加」のタブをクリックし、

選択したドメインに間違いがないか確認して OK でしたら  
独自 SSL 設定を追加する（確定）をクリックします。





上記のように「しばらくお待ちください。」の表示後、数分待ったのち、画面が以下のように変わります。



「www.\*.\*.\*.\*.com」に独自 SSL 設定を追加しました。  
と出ればここでの設定は完了です。

ここまでの段階では <https://>でも見れる状態を追加しました。

この段階では「併用」と言って

http:// と https:// の両方の URL でアクセスできる状態になっており、  
まだ「常時」SSLではありません。

ですが、ひとまず、https://の追加が成功したかを確認してから次の作業に移った方が確実です。

ですので、

- ・ http://自分のサイト URL
- ・ https://自分のサイト URL

両方が表示されることを確認しましょう。

ただし、https 化には最大 1 時間かかると言われていています。上記までの作業すぐに https://自分のサイト URL にアクセスすると以下のようなエラー表示が出るとおもいます。



この接続ではプライバシーが保護されません

.com では、悪意のあるユーザーによって、パスワード、メッセージ、クレジットカードなどの情報が盗まれる可能性があります。詳細

NET::ERR\_CERT\_COMMON\_NAME\_INVALID

危険なアプリやサイトの検出に役立てるために一部のシステム情報やページのコンテンツを Google に自動送信する。プライバシー ポリシー

詳細設定

セキュリティで保護されたページに戻る

これは、SSL 設定が反映するまでには、1 時間程度かかるため、この表示が出るのは当たり前なので、慌てないでください。

この場合にも「反映に時間がかかっているだけだ」という認識で、時間を置いて待ち、1 時間以上経過してから、

- ・ http://自分のサイト URL
- ・ https://自分のサイト URL

の両方にアクセスして表示されることを一旦確認しましょう。

↓ ↓ **第1段階目確認事項** ↓ ↓

- ・ http://自分のサイト URL
- ・ https://自分のサイト URL

の両方が無事に表示されてから、次の第2段階に進んでください。

## ■ 第2段階： サイト URL を https://に変更する

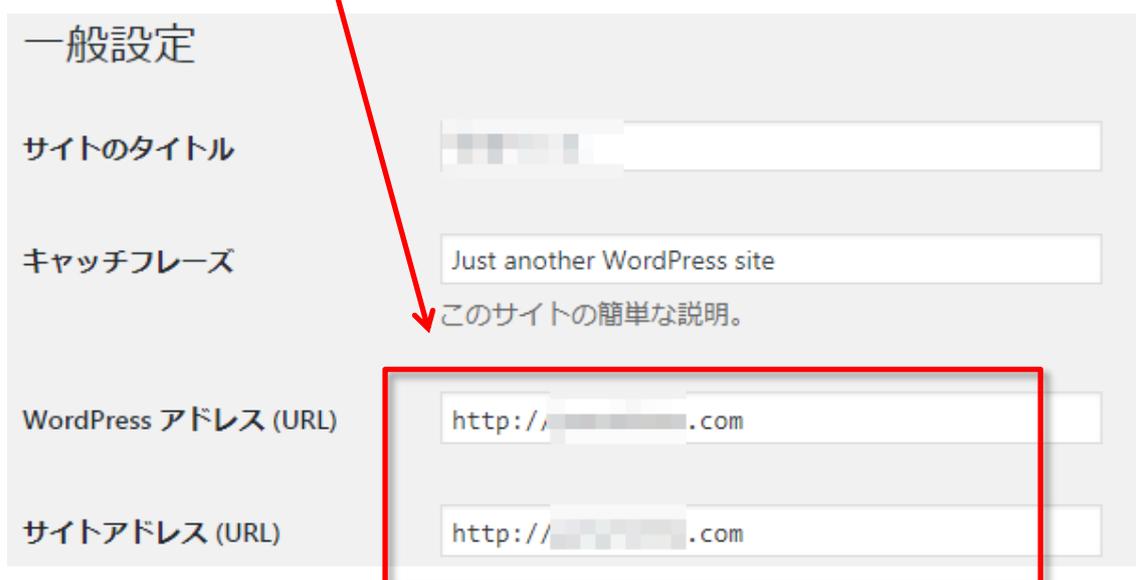
---

WordPress 管理画面の左サイドバーにある、  
設定 → 一般をクリックします。

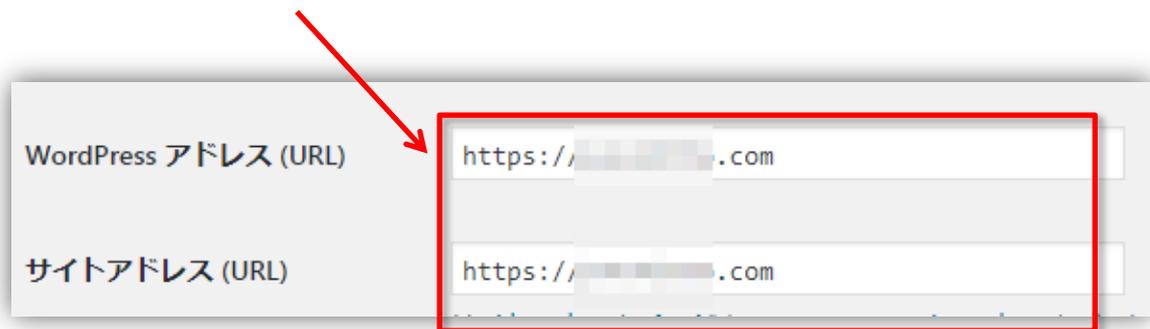


最初は以下のように

WordPress アドレスが http:// になっています。



この部分を https:// の形式に変更します。



The image shows a screenshot of the WordPress settings page. Two input fields are visible: 'WordPress アドレス (URL)' and 'サイトアドレス (URL)'. Both fields contain a URL starting with 'https://'. A red rectangular box highlights the 'https://' part of both URLs. A red arrow points from the text above to the 'https://' part of the top field.

p の後ろに s を入れるだけで済みますが s を間違えて、半角ではなく、  
全角の s を入れないように注意しましょう。

\* 正しいのは半角の s を入れます。

変更したら、下の方にある、「変更を保存」をクリックします。



\* こちらの「変更を保存」を押すと、その段階で一旦ログアウトすると思いま  
す。 その場合には、再度 WordPress にログインし直せば大丈夫です。

なお、WordPress の URL が https で始まる形式に変えたため、  
WordPress のログイン用 URL も、https で始まるものに以降は変えて  
以下、2つのどちらかの URL からログインするようにした方が良いでしょう。

1、https://ブログ URL/wp-login.php

2、https://ブログ URL/wp-admin

がログイン URL になります。（どちらでもログインできます）

では、次の第3段階の作業に移りましょう。

## ■ 第3段階：.htaccess の記述を変更する

---

### ■ 3-1. 設定対象ドメインの選択

X サーバーのインフォパネルにログインします。

[https://www.xserver.ne.jp/login\\_info.php](https://www.xserver.ne.jp/login_info.php)

サーバーパネルにログインします。



最初にログインした画面のままだと、初期のデフォルトドメイン <http://○○○○○○○.xsrv.jp> に対しての操作画面のままですので、自分が取得したドメイン、<http://△△△△△.com> の操作画面にする必要があります。

左下の設定対象ドメインの変更

のところの▼からドメインリストを出し、該当のドメインを選びます。

The screenshot shows a control panel interface with various settings. On the left, there is a sidebar with categories like 'ご利用プラン', 'ディスク使用量', '空き容量', 'ドメイン', 'サブドメイン', 'メールアカウント', 'FTPアカウント', and 'MySQL'. The 'MySQL' section is expanded to show '設定対象ドメインデータ'. Below this, there are input fields for 'ドメイン', 'サブドメイン', 'メールアカウント', and 'FTPアカウント', each with a '0' next to it. A section titled '設定対象ドメイン ?' contains a text input field with 'com' and a dropdown arrow button. Both the text input and the dropdown button are highlighted with red boxes. A red arrow points from the top of the page down to the dropdown arrow button. To the right of the dropdown is a button labeled '設定する'. The main content area on the right contains various settings such as 'ホームページ', 'FTP', 'データベース', and 'MySQL'.

選んだら、「設定する」をクリックします。

ご利用プラン		※ パスワード変更	※ メールアカウント設定
ディスク使用量		※ サーバー情報	※ 迷惑メール設定
空き容量		※ バックアップ	※ 自動応答設定
ドメイン			※ SMTP認証の国外アクセス制限設定
サブドメイン			※ メールの振り分け
メールアカウント			※ メールिंगリスト・メールマガジン
FTPアカウント		 ホームページ Homepage	 FTP File Transfer
MySQL		※ アクセス制限	※ FTPアカウント設定
<b>設定対象ドメインデータ</b>		※ エラーページ設定	※ FTP制限設定
ドメイン : ■■■.com		※ MIME設定	
サブドメイン	0	※ Cron設定	 データベース Database
メールアカウント	0	※ mod_pagespeed設定	※ MySQL5.5移行ツール
FTPアカウント	0	※ .htaccess編集	※ MySQL設定
<b>設定対象ドメイン ?</b>		※ サイト転送設定	※ phpmyadmin(MySQL5.5)
■■■.com	<input type="button" value="設定する"/>	※ アクセス拒否設定	※ phpmyadmin(MySQL5.0)
		※ CGIツール	
		※ 自動インストール	

そうしましたら、今度は、右上の

★現在の設定対象ドメインが、取得したドメイン

<http://△△△△△.com> であることをご確認ください。

この場面でもし、

<http://○○○○○○○.xsrv.jp> というドメインが表示されていたら、

うまくできていません。P13 に戻って操作をやり直しましょう。

OK でしたら、この画面は、

この独自ドメイン <http://△△△△△.com> に対して操作する画面に

切り替わりましたということになります。

トップ [マニュアル](#) [ログアウト](#)

現在の設定対象ドメイン

メール Mail	ドメイン Domain
❖ メールアカウント設定	❖ ドメイン設定
❖ 迷惑メール設定	❖ サブドメイン設定
❖ 自動応答設定	❖ DNSレコード設定
❖ SMTP認証の国外アクセス制限設定	❖ SSL設定
❖ メールの振り分け	❖ 動作確認URL
❖ メールリングリスト・メールマガジン	

### ■ 3-2. .htaccessの編集画面へ

こちらの.htaccess 編集をクリックしてください。



The image shows a screenshot of a control panel menu with two columns of settings. A red arrow points from the top left towards the '.htaccess編集' option, which is highlighted with a red rectangular box. The menu items are as follows:

❖ サーバー情報	❖ 迷惑メール設定
❖ バックアップ	❖ 自動応答設定
	❖ SMTP認証の国外アクセス制限設定
	❖ メールの振り分け
	❖ メーリングリスト・メールマガジン
 ホームページ Homepage	 FTP File Transfer
❖ アクセス制限	❖ FTPアカウント設定
❖ エラーページ設定	❖ FTP制限設定
❖ MIME設定	
❖ Cron設定	 データベース Database
❖ mod_pagespeed設定	❖ MySQL5.5移行ツール
<b>❖ .htaccess編集</b>	❖ MySQL設定
❖ サイト転送設定	❖ phpmyadmin(MySQL5.5)
❖ アクセス拒否設定	❖ phpmyadmin(MySQL5.0)
❖ CGIツール	
❖ 自動インストール	

.htaccess 編集のタブをクリックします。



**.htaccess編集**

.htaccessの編集が行えます

使用前のご注意 **.htaccess編集**

設定対象ドメイン [ ]

 この機能は上級者向けの機能です

「.htaccess」を編集することでウェブサーバーの挙動を制御することができます。

なお、本サーバーパネルで提供している一部機能の設定に関する記述や、WordPressなどのプログラムによる記述が自動的に行われている場合があります。心当たりがない記述であっても不用意に削除なされないようご注意ください。

編集後はウェブサイトが正常に表示されるかを必ずご確認ください。

※本機能を利用した場合は文字コードが「EUC-JP」として保存されます。

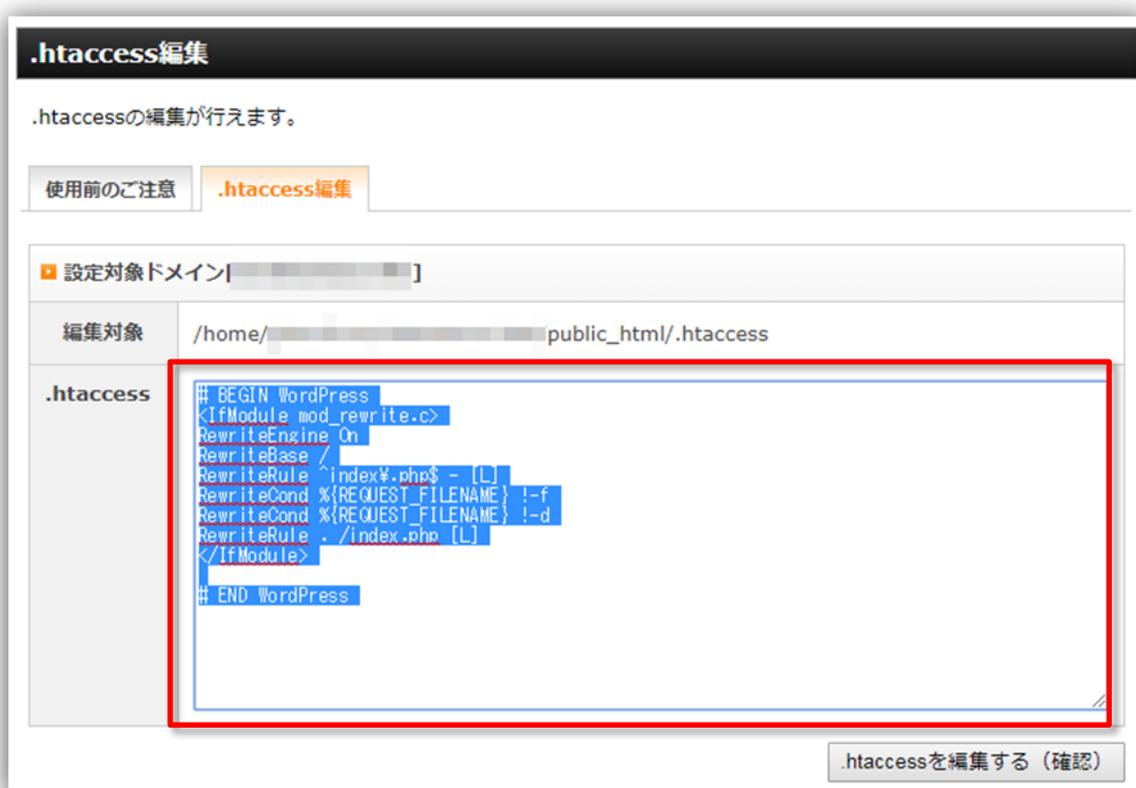
### ■ 3-3. .htaccess ファイルの記述バックアップ

これから、この赤枠で囲った中のソースを編集します。

失敗を防ぐために、このソースを全文コピーして

テキストファイルなどに保存しておきましょう。

(おかしくなってしまった時に、元に戻せるようにするためです)



The screenshot shows a web interface for editing the .htaccess file. The title is ".htaccess編集". Below the title, there is a message ".htaccessの編集が行えます。" and two tabs: "使用前のご注意" and ".htaccess編集". The main content area has a dropdown menu for "設定対象ドメイン" and a text input for "編集対象" with the value "/home/...public\_html/.htaccess". Below this, there is a text area for ".htaccess" containing the following code:

```
# BEGIN WordPress
<IfModule mod_rewrite.c>
RewriteEngine On
RewriteBase /
RewriteRule ^index%.php$ - [L]
RewriteCond %{REQUEST_FILENAME} !-f
RewriteCond %{REQUEST_FILENAME} !-d
RewriteRule . /index.php [L]
</IfModule>

# END WordPress
```

The code is highlighted with a red box. At the bottom right of the interface, there is a button labeled ".htaccessを編集する (確認)".

#### \* よくある質問

自分の.htaccess のソースが上記と異なりますという質問があります。この場合についての解説は後述の[こちら](#)をご参照ください。

### ■ 3-4. `.htaccess` ファイルに記述を追加する

先程の箇所にソースの記述を追加します。

[https://www.xserver.ne.jp/manual/man\\_server\\_fullssl.php](https://www.xserver.ne.jp/manual/man_server_fullssl.php)

↑ 上記ページに行き、こちらの赤枠で囲っている部分のソースを全文コピーしてください。

#### Webサイトの常時SSL化

独自SSLの設定が完了した時点では、自動的に「https://～」のURLへ転送されません。

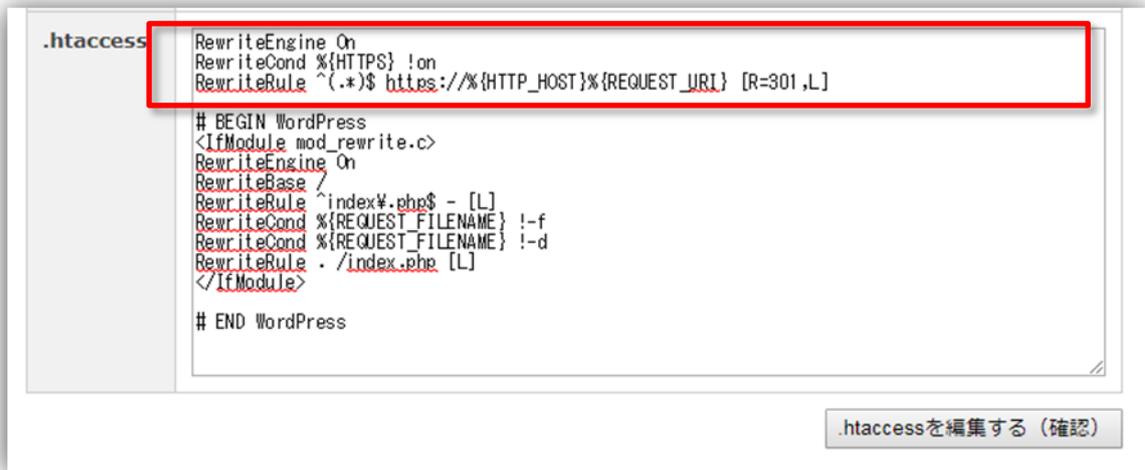
Webサイトにおけるすべての表示を常時SSL化する場合は、「[.htaccess編集](#)」で以下の記述を追加します。

```
RewriteEngine On
RewriteCond %{HTTPS} !on
RewriteRule ^(.*)$ https://%{HTTP_HOST}%{REQUEST_URI} [R=301,L]
```

ソースをマウスで全文選択すると青色反転しますのでその状態で右クリック→コピー

```
RewriteEngine On
RewriteCond %{HTTPS} !on
RewriteRule ^(.*)$ https://%{HTTP_HOST}%{REQUEST_URI} [R=301,L]
```

コピーしたソースを、.htaccess 編集画面にて、  
一番上の行へ、貼り付けします。  
最初に2, 3回改行して、上部を空白にしてからそこへ、  
右クリック→貼り付けをすると、わかりやすいです。



貼り付けた後に、改行（空白行）を入れて下さい。

```
RewriteEngine On
RewriteCond %{HTTPS} !on
RewriteRule ^(.*)$ https://%{HTTP_HOST}%{REQUEST_URI} [R=301,L]
```

```
# BEGIN WordPress
<IfModule mod_rewrite.c>
.....
.....
```

となるように、元々あった記述と、今回付け足した記述との間に1行の空白行が入るようにしてください。

以下の図のような配置になります。（4行目が空白行）

```
.htaccess
RewriteEngine On
RewriteCond %{HTTPS} !on
RewriteRule ^(.*)$ https://%{HTTP_HOST}%{REQUEST_URI} [R=301,L]

# BEGIN WordPress
<IfModule mod_rewrite.c>
RewriteEngine On
RewriteBase /
RewriteRule ^index%.php$ - [L]
RewriteCond %{REQUEST_FILENAME} !-f
RewriteCond %{REQUEST_FILENAME} !-d
RewriteRule . /index.php [L]
</IfModule>

# END WordPress
```

[.htaccessを編集する \(確認\)](#)

その後 「.htaccess を編集する (確認) 」をクリックします。

確認画面になります。

- ・ 貼り付けたソース（1～3行目）
- ・ 空白行（4行目）
- ・ 元々あったソース（5行目～）を確認できたら

「.htaccess を編集する（確定）」をクリックします。



これで常時 SSL 化への作業は一通り完了しました。

おつかれさまでした。

## ■ よくある質問

Q、.htaccess の編集の画面で

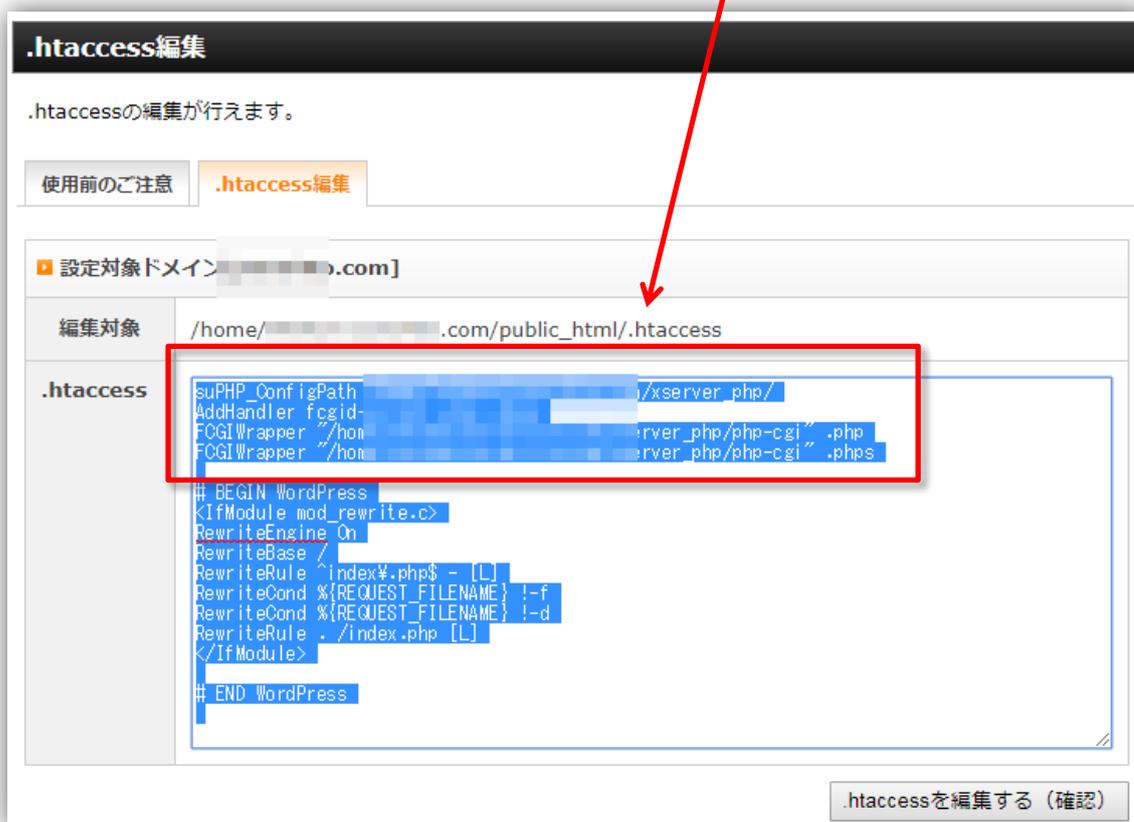
マニュアルのソースの記述と異なっていました。

マニュアルでは以下のようになっていますが

自分の場合には、マニュアルにはなかった、suPHP から始まる 4 行が上についていました。

# BEGIN WordPress 以下は全て一緒です。

この場合どうすれば良いのでしょうか？



The screenshot shows the ".htaccess編集" (Edit .htaccess) interface. The "編集対象" (Edit target) field shows the path "/home/.../public\_html/.htaccess". The ".htaccess" content area contains the following code:

```
suPHP_ConfigPath /xserver_php/
AddHandler fcgid-
FCGIWrapper /home/.../server_php/php-cgi" .php
FCGIWrapper /home/.../server_php/php-cgi" .phps
# BEGIN WordPress
<IfModule mod_rewrite.c>
RewriteEngine On
RewriteBase /
RewriteRule ^index%.php$ - [L]
RewriteCond %{REQUEST_FILENAME} !-f
RewriteCond %{REQUEST_FILENAME} !-d
RewriteRule . /index.php [L]
</IfModule>
# END WordPress
```

A red arrow points from the text above to the first four lines of code, which are highlighted in blue. At the bottom right, there is a button labeled "htaccessを編集する (確認)".

A. suPHP から始まる最初の 4 行ですが、この記述があるのは、  
数年前から X サーバーを契約している場合に多い例となります。

始めの 4 行に書かれていることは

- ・ PHP を動かす際のプログラムの権限の定義 1 行
- ・ PHP の高速化の処理に関わる記述 3 行

になりますので今回の SSL とは無関係になります。

元々ある場合に、消してしまうと

PHP の Ver と WP の Ver の不一致が発生するので  
エラーになり、WP が表示されなくなるので消さないでくださいね  
という扱いになります。

ですので、マニュアルと同じ、違う関係なく、元々ある記述は消さないように  
して、コード追加作業を行ってください。

※ ただし、マニュアルとは異なり X サーバではないサーバをお使いの場合は  
サーバごとに内容が異なってきますので、  
こちらでは、X サーバにて進められていらっしゃる事が前提となります。

## ■ 最終確認

---

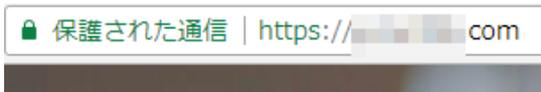
WordPress 管理画面の左上の、家のマーク → サイトを表示  
で、サイトを見てみましょう。



もしくは `https://〇〇〇〇.com`（自分のサイト URL で、`https` で始まる形式の URL）を直接アドレスバーに打ち込んでアクセスしてみます。

左上のアドレスバーのところに、

鍵マークで 保護された通信 と出て、サイトが表示されれば無事に反映完了  
です。



\* ブラウザが Google クロームではない場合、違う見た目の場合があります。  
同じになるか確認されたい場合は、Google クロームのブラウザにてアクセス  
してみましょう。

\* この時点では記事は 1 記事も入っておりませんので、

投稿 何も見つかりませんでした

のような表示が出ますがこれはエラー表示ではありません。

エラー表示ではなく、サイトの形式になっていればひとまず OK です。

インストール時期によって違うかもしれませんが、一例としては

このような表示です。



このようになっていれば、完了です。

## ■ 転送確認

次に転送確認をします。

http://〇〇〇〇.com (自分のサイト URL で http 形式のもの)

の URL をアドレスバーに入力し、

自動的に

https://〇〇〇〇.com (自分のサイト URL で https 形式のもの) に

切り替わって表示されるかを確認してください。

確認ができれば無事に常時 SSL 化が成功しています。

おつかれさまでした。